

アンケート調査による住環境に対する住民意識の把握と夜間照度実測 幹線道路と鉄道に挟まれた地区における住環境適性評価および住民主体の住環境改善活動の支援 その1

住環境 アンケート調査 住民参加

住民意識 夜間照度 実測

準会員 ○登崎 涼¹

正会員 宇田川 貴弘²

正会員 高野 剛³

正会員 三浦 昌生⁴

1. はじめに

住環境に問題を抱える住民にとって、何らかの対策を講じようとしても専門的な知識や活動の土台がないため、自分たちの力だけでその実態を正確に把握し改善することは容易ではない。本研究ではそのような自治会を対象として、住民を主体としたアンケートや実測を行い住民の住環境に対する意識の向上を図り、住民自身の手で環境を創り、参加型社会の一端を担うことを目的とした「住快環プロジェクト」を行っている。

本研究は越谷市の鯛之島自治会を対象として、懇談会・アンケート調査・夜間照度実測を通し、地区内の活性化と住環境の改善につなげることを目的としている。ここでは上記の活動を通して明らかになった当自治会の住環境における問題点について述べる。

2. 対象地区の概要と調査範囲

鯛之島自治会は、埼玉県越谷市に位置しており、東武伊勢崎線大袋駅から徒歩10分ほどの場所に位置している。自治会加入率は約8割で世帯数が214世帯である。自治会の地区は国道4号線と東武線に挟まれていることが特徴であり、高齢者が多く消灯時間が早いいため、家からの灯りが少ない。この点から自治会は騒音、夜間の明るさに対しての問題がある。そして国道4号線から地区内への車の通り抜けが多く危険を感じている。

3. 第1回懇談会

2014年9月27日(土)に鯛之島自治会館にて住民18名、教授1名、筆者らを含む学生4名の計23名が参加して第1回懇談会を行った。第1回懇談会では地域の住環境への意識を確認し結束を高め、地区において悩んでいる点・改善点を明確にし、活動の不安な点を解消し理解を深めることを目的とした。意見交換の場では、「トンネル付近が暗く、痴漢による被害が起きたりする」や「地区内を通り抜ける車が多く子供の飛び出しによる事故が不安である」などの意見などが交された。



図1 第1回懇談会の様子

4. 自治会住民対象のアンケート調査

4.1. アンケート調査の概要

住環境に対する住民の意識の把握と各実測、そのデータ分析をし、住環境適性評価をするための資料として同地区に加入している214世帯を対象にアンケート調査を行った。アンケート項目については、「夜間の道路の明るさ」「幹線道路と鉄道から発生する交通騒音」「自治会地区を走る通過車両・交通量」と決めた。また住環境適性評価を行うために、評価項目を「安全性」「健康性・快適性」「コミュニケーション性」に分類し、これらに関する質問もアンケートの内容に加えた。

アンケート調査は11月5日(水)から11月8日(土)の間で行い、回収数は174部、回収率は約81%であった。

4.2. 夜間照度に関するアンケート調査の結果

図2に「自治会内の夜間の明るさについてどのように感じていますか」の回答結果を示す。「暗い」「とても暗い」の回答が全体の52%で「明るい」「とても明るい」の回答を大きく上回る結果となり、多くの住民が自治会内を暗いと感じていることが分かった。

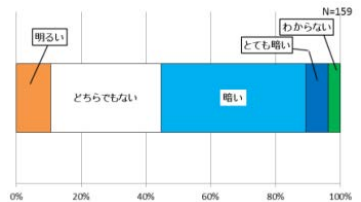


図2 「夜間の明るさについてどのように感じていますか」の回答結果

図3に「何が原因で暗いと思いますか」の回答結果をそれぞれ示す。この設問は、図2に示した設問で「暗い」「とても暗い」と回答した人を対象とした。回答者の68%が「街灯の数の少なさ」、49%が「街灯の設置間隔」が原因であると感じており、住民が街灯の設置場所や道路の長さに対する街灯の数に満足していないと考えられる。

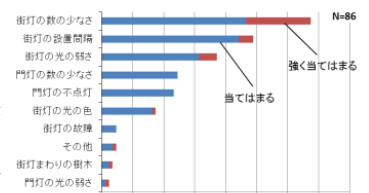


図3 「何が原因で暗いと思いますか」の回答結果

図4に「夜間によく利用する道路を地図上にご記入して下さい」の回答結果を示す。同地区内全ての道路を80の区間に分割し集計を行った。駅方面から同地区へ入る道路は夜間に良く利用される道路の中でも利用する人が多くなっている。

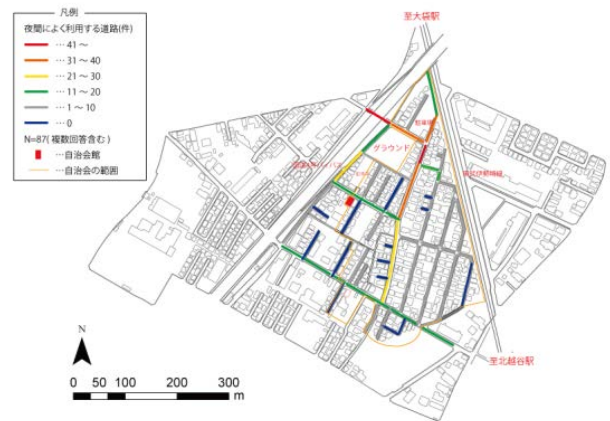


図4 夜間によく利用する道路

図5に「自治会地区の道路全体で特に不満を感じる場所を地図上にご記入して下さい」の回答結果を示す。

駅方面から地区内へ入る道路を「暗い」と感じている人が多く、夜間によく利用する道路と不満を感じる場所が一致している。

